

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-8315
住 所 東京都中央区京橋一丁目15番1号
氏 名 味の素株式会社
取締役社長 西井 孝明
(代理人) 理事 川崎事業所長 羽賀 治郎
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 9 条第 1 項（同条第 4 項において読み替えて準用する場合を含む。）の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区鈴木町1番1号		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	アミノ酸製造		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量	59,409	k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂

(第2面)

計 画 期 間	2019 年度 ~ 2021 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取り組みについてはホームページにて公表しています。 http://www.ajinomoto.com/jp/activity/environment/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

【会社基本方針】

私たち味の素グループは、「いのち」のために働き、持続可能な社会の実現に貢献します。地球上の各地で個性豊かな多様ないのちの営みのつながりが維持され、将来世代にわたるすべての人々が健やかな地球環境の中でよりよい暮らしを享受できることを目指し、事業活動を行い、社会とともに成長します。

1. (依存と影響の把握) 事業活動が依存する地球環境、社会について、その状況をタイムリーに把握し、評価します。

また、事業活動がこれらに与える影響について定量的、体系的に把握し、評価します。

2. (負荷の極小化) 環境規制等を徹底的に遵守し、的確に対応します。さらに、自主的に守りまた挑戦すべき基準を定め、事業活動から生じる環境負荷や生態系への影響を極小化することを追求します。資源の利用効率の最大化を追求し、生物多様性・生態系が保全される量・やり方で自然資源を調達するよう努めます。

3. (価値提供) 味の素グループの知見、技術、能力、資産を活かして、自然共生型、低炭素型、資源循環型への社会変革を目指し、食の持続性や生態系の保全・育成など、人と地球の「いのち」に貢献する商品・サービスの提供と技術・システムの提案を推進します。

4. (協働) サプライチェーン上の関係者に事業活動を通じて働きかけます。

5. (情報公開) 計画、実績について、体系的にまとめ、定期的に報告します。

6. (マネジメント) 環境マネジメントシステムを他のマネジメントシステムと有機的に連携させ、継続的に改善します。

●味の素グループゼロエミッション計画を作成し取り組み中

【川崎事業所】

味の素グループゼロエミッション計画にそって事業所目標を設定し取り組む

・ISO14001をベースとしたマネジメントシステム運用の定着

(ISO14001 認証登録 2001年3月、2015年バージョンUP認証登録 2018年1月)

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理(PDCAサイクル)を行うための方針

①年間1%のエネルギー原単位削減を目標とし、年度計画を策定する。

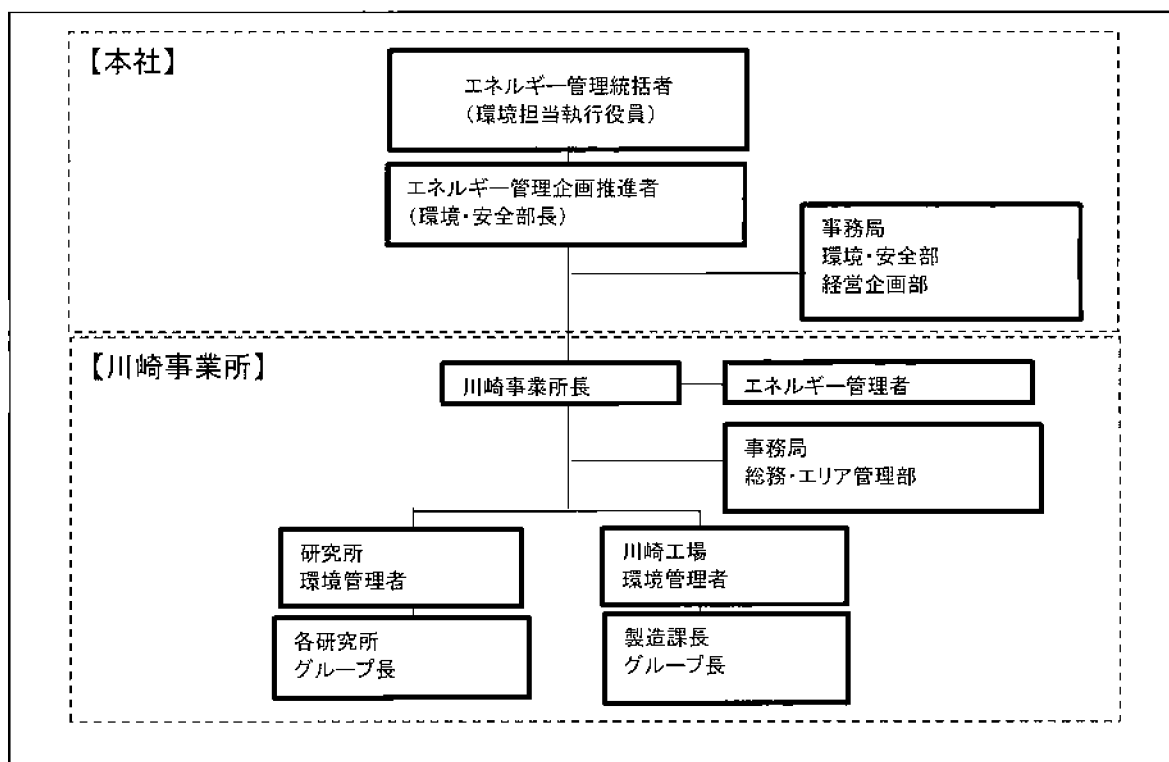
具体的な実施項目は毎月の生産会議や半年/回の法順守評価にて省エネ部会が進捗を確認する。

②エネルギー使用量及び排出量の実績管理を行い、省エネ部会の管理の基、省エネ課題を整理して計画の見直しを行う。

③毎月の生産会議や半年/回の法順守評価を省エネ部会で検証し、その評価を行う。評価によって実施項目の見直しを行う。

以上の方針を基にPDCAサイクルを実行・管理する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
基 準 年 度		2018		年度	
目 標 年 度		2021		年度	
基 準 排 出 量	(実)	48,186		(実)	
	(調)	0 t-CO ₂		(調)	t-CO ₂
目 標 排 出 量	(実)	46,740		(実)	
	(調)	0 t-CO ₂		(調)	t-CO ₂
削 減 量		(実)	1,446 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
内 訳	対策実施による削減量	(実)	1,446 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
削 減 率		(実)	3.0 %	(実)	%

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原 単 位 等 の 活 動 量		生産量			
原 単 位 の 単 位		t-CO ₂ /千 t			
基 準 年 度 の 値		5638			
目 標 年 度 の 値		5469			
削 減 率		3.0 %		%	

ウ 目標設定に関する説明

温室効果ガスの排出量削減を図る為、省エネ部会を中心としたPDCAサイクルを回すことにより、排出量を年1%以上削減することを前提に目標を設定した。
--

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

＜味の素グループで設定した2019～2020年度中期目標＞			
グループ全体のCO ₂ 排出量原単位削減率			
(目標値)			
2019年度	2005年度比	37%削減	
2020年度	2005年度比	38%削減	

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容（別表第 1 から 6 等を参考に記載してください。）

計 画	○生産設備のエネルギー管理 SOPを用いて適切な運転管理を行う。生産月報により定期的な原単位のチェック及び改善を行い、エネルギー管理のPDCAを回していく。 ○事務所等の空気調和の管理 エネルギー管理標準に基づき、エアコンの温度管理を行う。 指定フロンを使用した空調設備に関しては更新計画を策定し、順次ノンフロン型等の温室効果ガス係数が低いものへの更新を推進する。 ○照明設備の運用管理 エネルギー管理標準に基づき、不要な電灯の消灯等による管理を行う。 併せて蛍光灯使用箇所については更新計画を策定し、順次LED照明に変更していく。照明器具に関しても更新時に高効率のものに更新を行う。	
第 1 年度		
第 2 年度		
第 3 年度		
計画期間における取組の評価 (第 3 年度の報告時に記載)		

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

省エネルギー関連の設備投資については、基準年度以前から積極的な取り組みを行っている。 具体的には、これまで下記のような取り組みを実施している。 ○生産設備のエネルギー管理 計空設備更新に伴い、省エネタイプへ更新した。 ○事務所等の空気調和の管理 冷暖房温度（冷房は28℃、暖房は20℃）を目標に居室の冷暖房温度を徹底した。 指定フロンを使用した空調機を代替フロンを使用した省エネ型の空調機に更新した。 ○照明設備の運用管理 蛍光灯交換時期に合わせた節電型蛍光灯へ交換を実施した。 【CO2排出量実績】 2016年度 88.5千トン 2017年度 87.7 2018年度 85.4
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検 討 結 果
太 陽 光	×	
風 力	×	
バ イ オ マ ス	×	
未 利 用 エ ネ ル ギ ー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	・環境貢献、SDGsに基づいた製品・技術開発の推進による川崎メカニズム認証取得を目指す。 ・グループ企業を中心にモーダルシフトに取り組み、集積効率の向上や一部得意先への定期配送化による配送車両の削減等を行い、荷主の義務である輸配送に伴うエネルギー使用量の原単位を5年間平均年間1%以上削減を目指す。
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	1. グリーン購入の推進を行う。 森林生態系破壊リスクを考慮した紙資材の調達 2. 廃棄物の減量化、分別化の推進を図る。 3. 廃棄物の有効利用を促進する。 4. 業務委託会社に対する環境負荷の取り組み要請 納品・廃棄物運搬業者へのECO運搬の要請
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績（1、2号該当者等）

（1）事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	48,186	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

59,409	K L
--------	-----

ウ 事業所の数

1

（2）事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
味の素株式会社 川崎事業所	川崎市川崎区鈴木町1番1号	48,186 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂